

2年kk キャリア意識形成

第5回「社会で求められる力」

月曜3限

担当講師 角田伸彦

社会で求められる力とは

今回の授業は「社会で求められる力とは何か」というテーマです。
とりわけ、仕事の側面で重要な事柄について「**社会人基礎力**」というものを紹介します。

これは15年ほど前に、企業社会で議論になったことですが、経済産業省と日本経済連合会がまとめた「**働く人の基礎的能力**」についての指針です。

多くの企業がこの内容を重視して、採用時の判断材料にしてきています。

(3分野12項目すべての能力がないとダメということではありません。)

社会人基礎力とは何か

＊ 経済産業省フリー素材から引用

「**社会人基礎力**」とは

＊「前に踏み出す力」

＊「考え抜く力」

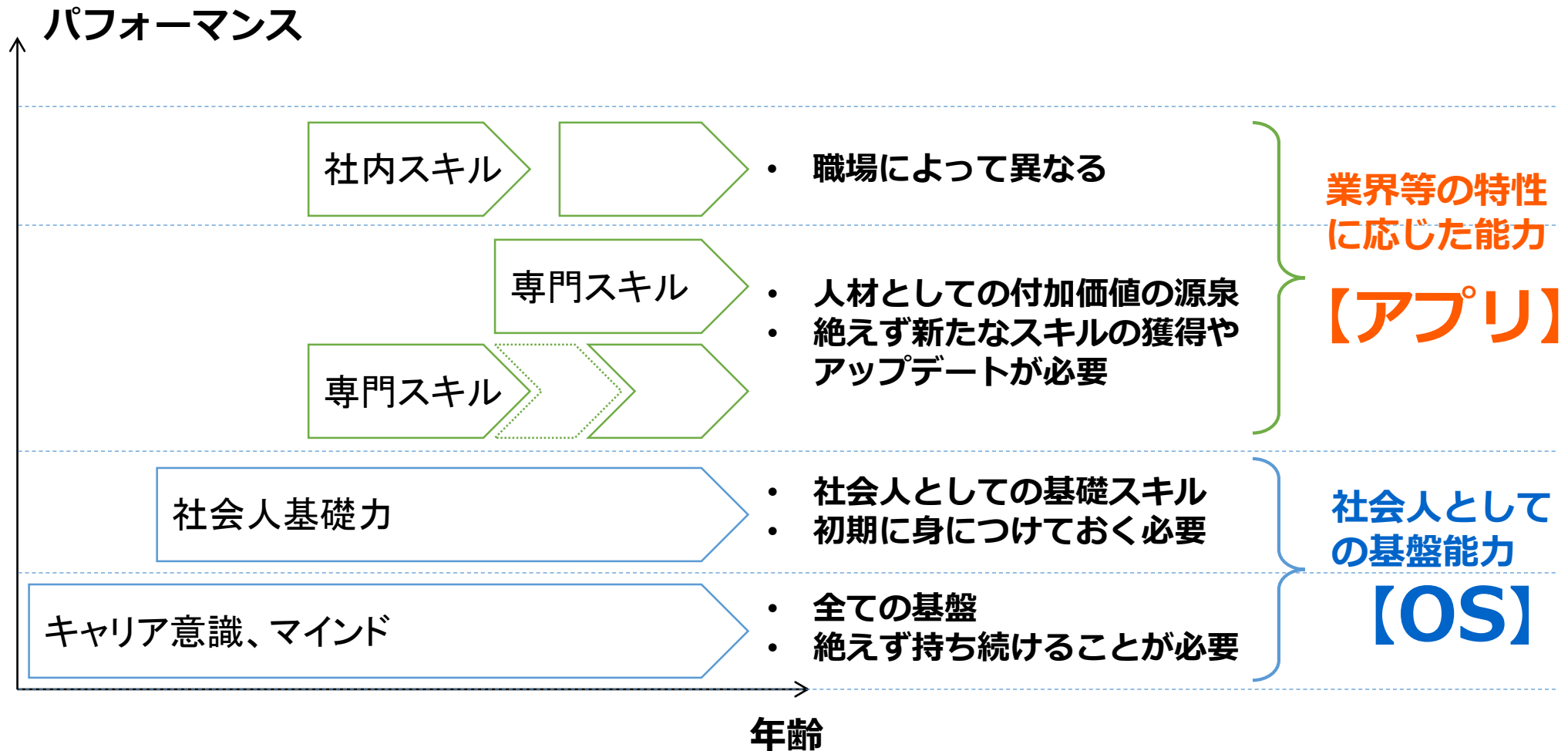
＊「チームで働く力」

この**3つの能力(12の能力要素)**から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。

「人生100年時代」に求められるスキル



人生100年時代の働き手は、【アプリ】と【OS】を常に“アップデート”し続けていくことが求められる。

今までの「社会人基礎力」とは

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(= 3つの能力・12の能力要素)」として定義。

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

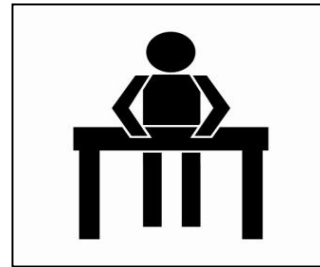
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

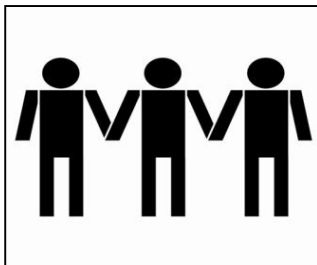
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

『前に踏み出す力（Action）』

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

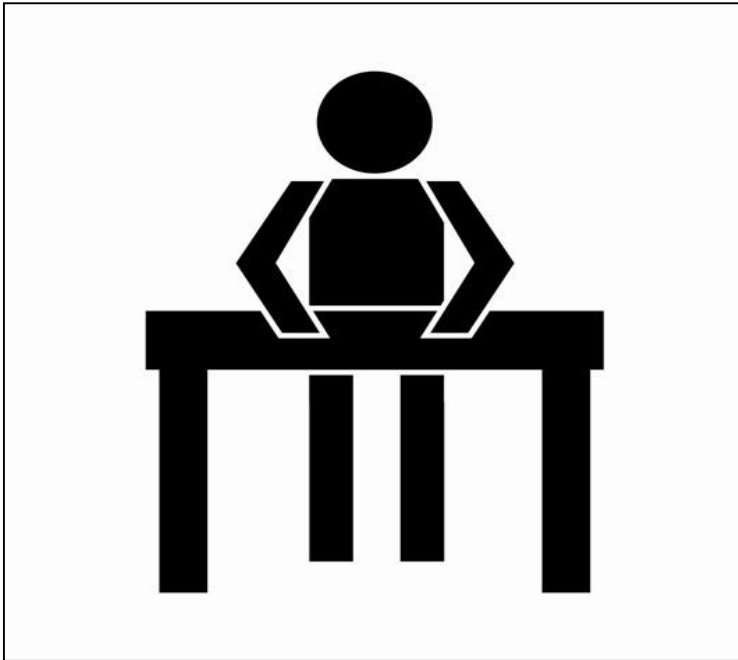
実行力

目的を設定し確実に行動する力

指示待ちにならず、**一人称で物事を捉え、自ら行動できるように**なることが求められている。

『考え抜く力（Thinking）』

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし
準備する力

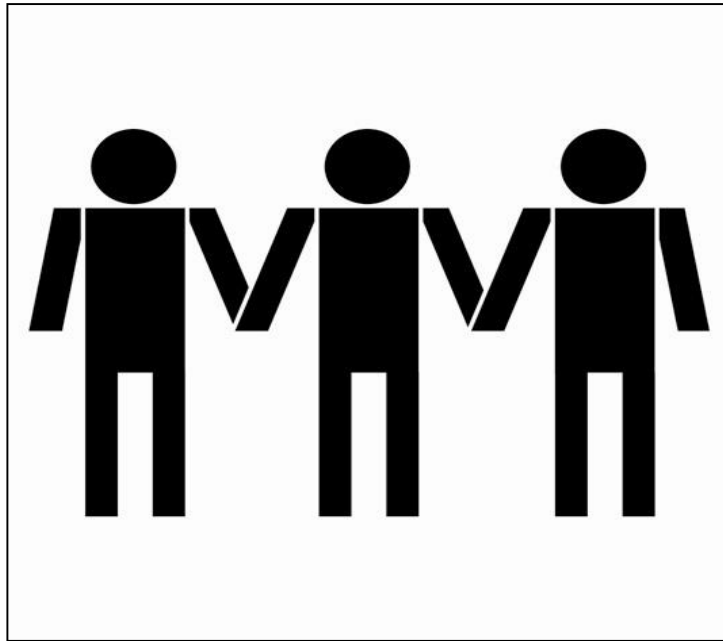
創造力

新しい価値を生み出す力

論理的に答えを出すこと以上に、**自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力**が求められている。

『チームで働く力（Teamwork）』

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや相手の立場を理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

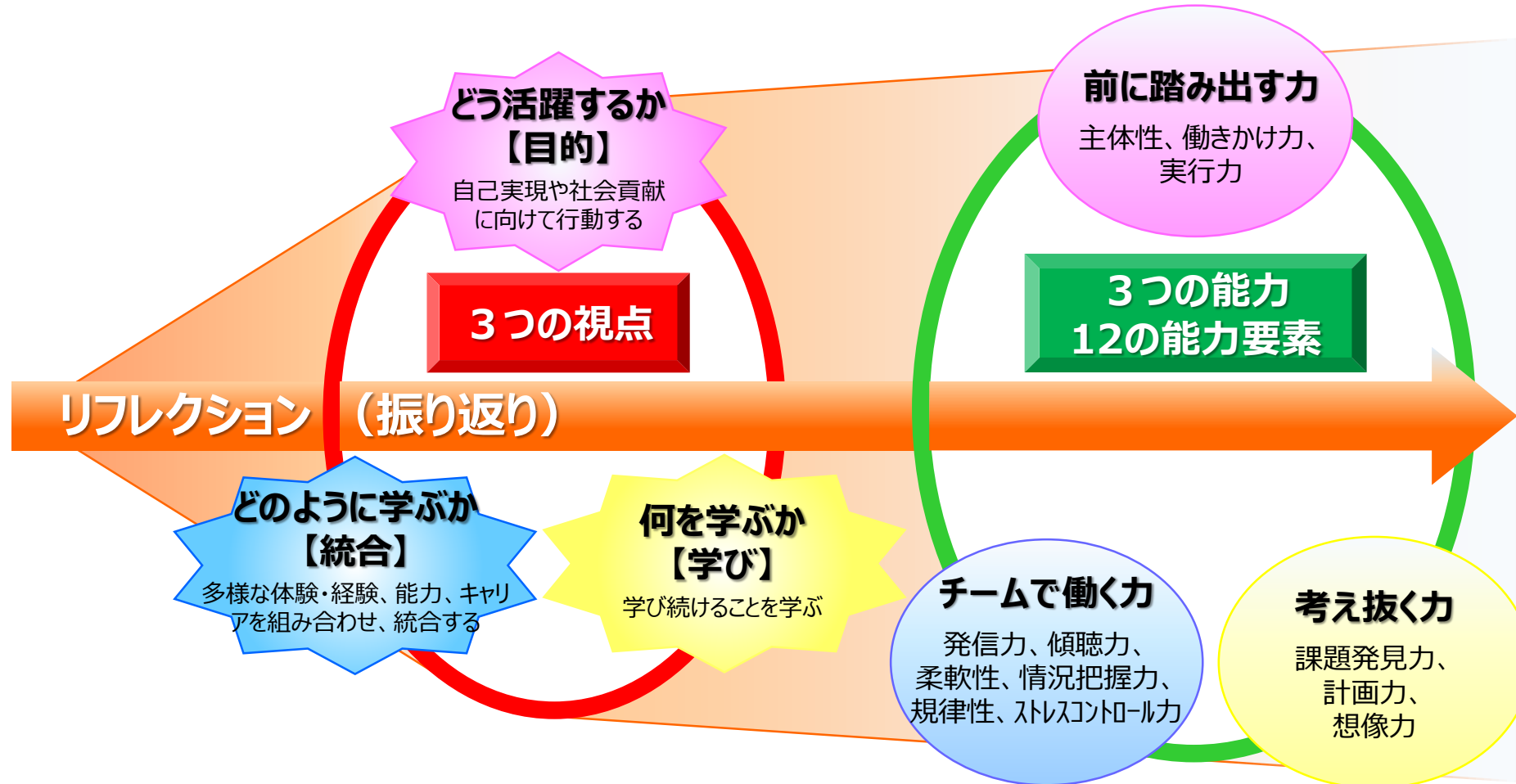
ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

グループ内の協調性だけに留まらず、**多様な人々との繋がりや協働を生み出す力**が求められている。

「人生100年時代の社会人基礎力」とは

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



どのような職業につこうと、人との関わりなくしては仕事はできないのが現実です。
最初から最後まですべて自己完結できる仕事はほんの一部の職人的なものに限られるかもしれません。

大多数の人は、企業などの組織に入り、その一員として周囲の同僚や上司と関係しながら業務を日々遂行しながら生活を組み立て生きていくことになります。

得意、不得意など人によってさまざまですが、ここはよく皆さん考えていきましょう。

そのような仕事人生において、社会人基礎力として定義されている
「能力」は重要な要件です。

多くの企業がここに挙げた「能力」を必要な要件として人材を評価しています。

どの企業も同じ能力を求めるのか

違います。

企業によって求める能力に違いはあります。

業種や業態によって、必要な能力は違っているでしょう。

ただし、基本的な能力

聴く・話す・読む・計算するなど 基礎学力（中学や高校レベルの能力）は当然どの企業も必要とします。

そのうえで、「社会人基礎力」を必要と考えているのです。その更に上が専門能力です。

それぞれの項目の必要度合いも、**環境変化、時代の流れなどのなかで変化していく**ことも忘れてはいけません。

建設業の技術者、サービス業の接客担当など皆さんが普通に考えればどういう能力が必要かは分かるはずです。

皆さんがすでに持っている能力で十分か、あるいはもっと高めていくべき能力があるのか。自分がやりたい仕事には
どういう能力が必要になるのか。ド二程度のレベルを必要とされるのか。

この先、企業研究をしていく中で、もっとはっきりしたことがわかってくるかもしれません。

ワーク

次のスライドには社会人基礎力のリストがあります。

良く読み、自分の能力要素について、そのレベルを右欄の 1 2 3 4 5 数字で表してみましょう。

（自己評価）

自分のノートに書いてみてください。

12項目のそれぞれの点をレーダーチャート（蜘蛛の巣のようなグラフ）にしてみてください。どんなグラフでもかまいません。

あなたの能力傾向が一目でわかるようになるでしょう。

分類(能力)要素	内容	自己評価 5段階
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	1 2 3 4 5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	1 2 3 4 5
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	1 2 3 4 5
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	1 2 3 4 5
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	1 2 3 4 5
	創造力	新しい価値を生み出す力	1 2 3 4 5
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	1 2 3 4 5
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	1 2 3 4 5
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	1 2 3 4 5
	状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力	1 2 3 4 5
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	1 2 3 4 5
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	1 2 3 4 5

提出レポート

課題テーマ

「社会人基礎力」の自己評価の結果について感想を書いてください。

前のスライドで5段階評価をしましたね。

その結果には自分なりに感じる部分があったと思います。

それについての感想を400字程度にまとめましょう。

提出期限 6月5日 20時 * 添付の提出用紙に記入